

第37号

発行
北九州地区
信徒使徒職協議会
会長 追立 泰治
編集
北九州信徒協広報部
担当司祭 中村 彰
担当委員 岩本光弘

カトリック
北九州地区
信徒協だより
News Bulletin for Catholic Believers' Association in Kita-Kyushu Area

主な内容

- 1面 北九州平和の集い
- 2面 震災被災地支援活動
- 3面・4面 正義と平和全国集会の分科会案内
- 5面 司祭紹介
シーグ活動の終焉
- 6面 冊子紹介
(奄美のカトリック排撃運動)
ニュースあれこれ

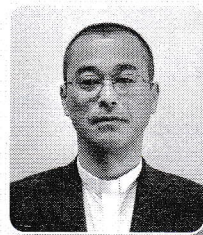
日本カトリック平和旬間(8月6日~8月15日)

8月10日(日曜日) 第14回 北九州平和の集い

テーマ

いのちを大切に する社会をめざして

〜見て、聞いて、知って、働いて〜 IN北九州



今年のメイン講師は **中村 彰 神父**

今、日本は平和の道を歩もうとしているでしょうか。それとも正反対の方向へと向かっているのでしょうか。日本カトリック平和旬間を間近にして一人一人が考えるときでもあるでしょう。14回目の「北九州平和の集い」は、これまで以上に平和を求める善意ある人たちと手をつなぎ、共に祈り行動するきっかけになれることを希望しています。(広報部)

ことしのテーマ

9月13日から9月15日に開かれる

正義と平和全国集会と同じテーマになっています。(IN北九州を追加)

これは、北九州平和の集いと正義と平和全国集会福岡大会が一つにつながっていることを表しています。戦後69年間、日本はずっと平和を保っています。しかし今、憲法9条を解釈変更することで、自衛隊の海外派遣を容認する動きが強まっています。平和旬間を迎えるにあたり、いのちを大切に
する社会を目指すために信徒使徒職として何が
できるかを考えるときもある
と思います。「平和を実現する人々は幸いであ

る。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5:9)」

メイン講師

メイン講師は正義と平和全国集会福岡大会の実行委員長である中村彰神父に決定しました。北九州平和の集いと正義と平和全国集会をつなぐ最も相応しい講師です。また、北九州地区司祭がメイン講師を行うのは、12年振りです。

実行委員長

湯川教会の平田豊敏さんが大役を担って下さいます。これまでの流れを熟知されている方ですが、「皆さんのご協力をお願いします。」とのこと

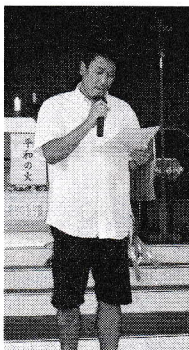
多彩な発表

毎年、身近な人たちがそれぞれの体験などを語ります。

- 岩手県大槌へ3回ボランティアに行った濱田さんが体験したことをお話しします。
- 長年ホームレス支援をしている牧師の森松さんが、抱撲館のことなどについて語ります。

- 福岡市のカトリック西新教会から青年たちが来ます。正義と平和全国集会の「キリスト者として働く」第6分科会を担当しており、それにちなんだ話が聞けそうです。
- エキュメニカルなグループ「キリスト者・9条の会」が今年も平和コントを予定しています。すっきり定番となったようですが、現代の危険な状況を短い時間内で楽しく伝えるには相当苦労があるようです。

その他にも発表を希望する方は、実行委員会まで知らせてほしいとのことです。



ダルクの紹介発表 2013年8月

平和献金先

「福島診療所建設委員会」に決定しました。福島第一原発事故に対し、

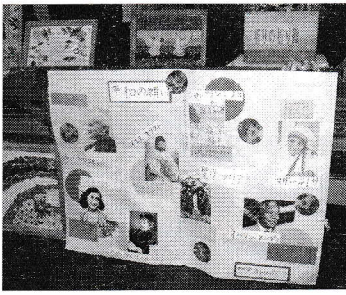
(一面続き)

「福島の子どもたちの命と健康を守ろう」と呼びかけられた基金によってふくしま共同診療所が建設されました(仮設診療所として2013年に開院)。福島に留まり生活している子どもたちに対し、病気が出てから治療するのではなく、病気にならないための予防に力を入れています。マスコミにも紹介され支援の輪は広がっているようですが、

しっかりとした診療所となるためにはまだまだ多くの支援が必要とのことです。実行委員会では、支援を行っている修道会などから福島診療所建設委員会の資料を取り寄せ、それを検討し今年の平和献金先と決めました。

子どもの広場

毎年、子どもの広場を設けて



子どもたちの作品
2013年8月

ています。子どもたちの目線で平和を考えてほしいと、信仰育成部会のみなさんが工夫を凝らしています。また子どもたちの広場で作られた作品は、平和祈願で奉納されますが、大好評です。



平和活動アピール 2013年8月

平和活動グループのテント

北九州地区には日頃から平和活動に取り組んでいるグループがたくさんあります。

アフリカ友の会、CLC、ピース9の会、ミンダナオ支援、ホームレス支援機構、ACO、ダルク、パレスチナ支援、モンゴルの子どもたち支援、カトリック20条の会、レプトン会：等々が一同に集まりその活動を紹介します。

多くの方に参加して頂きたい平和の集いです。

三回目の大槌ボランティア 濱田 政一(湯川教会)

現地はまだ支援が必要です

東日本大震災から丸三年が経ちました。今年も岩手県の大槌へボランティアに行きました。大槌に行くのは、今回で通算延べ日数が四カ月になりました。

昨年までベースのあった地域は地盤のかき上げのため、旧ベースだったホテルは取り壊しとなり、新しいベースは桜木町へ引っ越しとなりました。ここは20名程度しか宿泊できない小じんまりとした一軒家です。

現地の復興事業は、まだまだ手つかずと言ったほうがいい程進んでいません。やっとかさ上げのため、試験的な土砂の土盛があちこちにいくつかできている程度です。

私たちが遠く九州からテレビのニュースで見聞きするほど進んでいません。今だに手つかずの地域もあり現状はひどいものです。

このような状態なので、自立をしている人や職場があつ

て働いている人は別ですが、仮設住宅に入居している人たちの心はふさがり、心のすきみは進んでいます。集会の呼びかけをしてもなかなか集まってもみえず、支援をしている人たちも困っています。

キリストは「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と言われました。

現地はまだまだ支援が必要から状況が続いています。これからも皆様の手を差し伸べて下さることを願っています。

震災支援の働きから

三ヶ島 富美江(戸畑教会)

震災支援の活動も今年で3年になります。この活動は、故郷を思い苦しみを共に乗り越えようと、多くの人たちに声かけをしている福岡さんとの出会いからでした。

福岡さんは福島から出られ、現在は千葉で家族と暮らしている方です。福岡さんは今も、福島の双葉町の仮設住宅に住んでいる方と川内村とのつながりを持って活動を続けられています。

福岡さんからの手紙や電話の中にいつも「一人の力では実践は難しいことでしょう。しかし、一人ひとりが心を寄せあい、知恵を出し合い『被災者を救う。私たちの手で』という目標を持って一歩行動に移した時に、波紋は波紋となり、それが力となって本当に被災者を救うことができるのではないのでしょうか」と私たちに熱い思いを投げかけられます。他人の役に立てると思っていたことでも、実は私達の方が、勇気、希望、喜びをいただいている元気をもらっています。私達もこの思いを大切にこれからも続けていきたいと思ひます。これからも神様から喜んでもらえる働きをしたいと思ひます。

第38回 日本カトリック正義と平和全国集会福岡大会近づく

9月13日(土曜)・14日(日曜)・15日(月曜)の3日間

カテドラル大名町教会

多くの方のご参加をお待ちしています

参加費は1,000円

学生は無料です。

参加申込方法は、裏面(4p)をご覧ください。

9月14日(日曜)

分科会のご案内

大会まで二カ月となりました。大会の内容についてはパンフレットが各小教区に送られていると思いますが、ご覧になられたでしょうか。毎回の全国集会では、教会と社会とのつながりはどうなっているのか、キリストが望まれる主の御旨が行われる社会になるために、どのようにすればよいのかを学ぶために分科会を用意しています。今回も2日目に10の分科会を用意していますので、ぜひとも、どれかの分科会に参加されるようにお勧めします。

皆さんが参加する分科会を選ぶための参考になるよう、各分科会の要約を作りました。詳しくは大会のパンフレットで確認してください。

***第1分科会
日韓の歴史認識
をめぐる現状と
課題について**

来年は日本の敗戦から70年・日韓条約締結から50年。この節目を見据え、分科会では、あらためて日韓の歴史認識をめぐる問題を取りあげます。

近代日本と他のアジア諸国との「過去の清算」が現在もなお課題となるのは、戦後も継続した植民地主義や冷戦体

制の問題を抜きには考えられません。この分科会では、まずは韓国において、植民地主義や冷戦に端を発する諸問題を克服するため、どのように努力が重ねられてきたのかを、ドキュメンタリー映像をみながら概観します。

会場は大名町教会です。

***第2分科会
死刑廃止問題
について**

私たちの住む福岡には死刑台があります。今回は講師として原田正治さんをお招きし「死刑囚と出会う」と題して、皆さま方と共に分科会を行うことになりました。裁判員制度が始まって5年が過ぎました。殺人や強盗・強姦・放火などの事件を市民裁判員として裁くという制度です。関係ないと思っていた死刑制度に関わる可能性が誰にでもあります。この機会に死刑について考えてみませんか。

会場は九州キリスト教会館です。

***第3分科会
薬物依存からの
脱却**
九州DARC(ダルク)
19周年記念フォーラム

九州DARCも今年で19年目を迎えることが出来ました。ここ最近私たちの想いとは逆に、増加、深刻化が進んでいる薬物乱用・依存問題において、当事者の私たちがけではなく行政・司法・医療・福祉と様々な機関との連携が、無くてはならないもの

となつていきます。これからのDARCの活動のなかでも各機関とのネットワークを繋いでいく事の重要性はさらに大きくなっていくもので、この機会にそれぞれの立場から見た薬物乱用・依存問題について少しでも多くの方に知っていただきたいと思えます。

会場は、福岡市中央区舞鶴の「あいれふ」です。

***第4分科会
福岡の現状、
福岡支援**

福岡の現状報告と当事者である避難者からの当事者でなければ話せない生の声を聞いて頂きます。さらさら星ネットの生活相談と支援活動の中から見えて来た生活上の困難・問題点、また昨年からはまった国と東京電力を相手取つての福岡原発被害東京裁判について、現状を支援者の立場から報告致します。

会場は大名町教会です。



***第5分科会
憲法問題**

憲法と私たちの生活
（イエスの目を通して）

私たちの国は、戦後70年近く平和憲法を持つ国、平和を愛する国として国際的にも認められ、信頼を得て、そのおかげで経済的にも発展してきました。現在の日本の繁栄は日本国憲法に守られてきたとも言えます。その平和国家日本を現安倍政権は「美しい国」「強い国」を目ざし、戦争のできる国に作り替えようとしています。最近では解釈改憲によって集団的自衛権の行使容認を目指しています。

この流れの中で、イエスを信じ、イエスと共に生きようとする私たちはどのように考え、行動すればいいのでしょうか？憲法問題に精通し、正義と平和協議会の担当司教でもあった松浦悟郎司教様のお話をもとに、共に祈り、共に語り合い、考えてみませんか。

会場は九州キリスト教会館です。

***第6分科会
キリスト者として働くこと**

「働く」ことは、生きるために欠かせないことです。しかし、果たして、「働く」、「生きる」とはどういうことでしょうか。

仕事をしていると、時間に追われ過ぎていく一日の大半を占め、「何のために働くか」なんてゆっくり考える時間などありません。「自己責任論」などが強調され、世の中に何かしらの葛藤をもって、働いている人がきつとたくさんいるはずで、キリスト者として、心身ともにどう働くのが神様に望まれているのだろうか。

当日は、働く上での問題テーマの提示、劇などを通して参加者にも広くご意見を伺い、有意義な時を共有したいと考えています。

会場は大名町教会です。

***第7分科会
滞日外国人問題**

この分科会は「移住労働者共に生きるネットワーク・九州（九州ネット）」が担当し、外国人労働者の実情や課題などを二人の共同代表が報告します。九州の地でキリスト者として働くことでの問題や課題などを具体的に報告します。今までこの問題を全く知らなかった方にも分かりやすく報告しますので、たくさん参加をお待ちします。

会場は九州キリスト教会館です。



***第8分科会
障害者問題**

教皇フランシスコは「私ははつきりと見ます。教会が今日最も必要とすることは、傷を癒す能力です。信じる人た

ちの心を温める力です。身近さと親しさです。教会は野戦病院だと思えます」と答えています。

今回は精神障害者問題に特化して精神疾患発症からの闘いをその家族に語ってもらい悩み・苦しみ・喜びを分かち合いたいと思います。

会場は大名町教会です。

***第9分科会
女性と子どもの問題**

家庭内暴力、引きこもり等、子どもたちに顕在化している行動の背景にDVや児童虐待が潜んでいるといっても過言ではありません。今回の分科会では、まずは、DV問題とはどのようなものか、どのようなことが背景となっ

て起こっているのか、加害者、被害者それぞれの状況とそこにいる子どもたちの状況を共有すると共に、どのような支援が望ましいかを学びます。

会場は大名町教会です。

***第10分科会
世界の貧困問題**

国際カリタスは「一つの家族、すべての人に食料を」と名付けた世界的なキャンペーンを、2013年12月10日に開始しました。

その目的は、2025年までに世界から飢餓を撲滅することです。世界160を越えるメソッドが参加し、日本においてもカリタスジャパンが反貧困キャンペーン『五つのパンと二匹の魚』を展開中です。世界の貧困の現実とその対策について、何ができるのかを考えましょう。

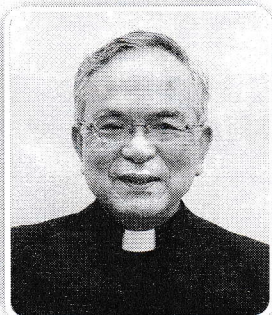
会場は大名町教会です。

参加申込方法

FAXかメールで事務局迄
FAX(093)622-1290
seigitoheiwa2014@gmail.com

申込書は教会に置いています。
わからない方は、ご連絡を。

司祭紹介コーナー



小倉教会 主任司祭

ヨセフ

牧山 勝美 神父

1941年生まれ 72歳
長崎市出身

『司祭談』 今年で叙階してから47年目になりました。叙階後の任地は、大名町(助任)、小倉(助任)、久留米、帯山、健軍、小郡、手取の各教会でした。今回の小倉教会へは40数年ぶりの赴任です。久しぶりの小倉ですが、町が変わっていて地理的なことが分からず困っています。しかし、助任でいたころの人たちが健在で懐かしく感じています。小倉教会では、信徒が自分たちのことは自分でやるという雰囲気を感じています。また、いろいろな会合が教会で行われていることは良いことだと思っています。また、この教会には幼稚園もあり、大きな教会を一人で担当していますので忙しいです。

『信徒談』 40数年ぶりの小倉教会への赴任。教会の外観はあまり変わっていないけど周りの風景は大きく変わっているでしょうから、気分はまるで浦島太郎でしょうね。以前から小倉教会にいる人には懐かしく、初めて会う人はちょっと緊張気味。一見厳しそうで近寄りやすい雰囲気があります。聖堂の中ではご聖体の前での祈りや静けさを大切にすることをよく話されます。しかし、説教も時にはユーモアも混ぜられて笑いもおこり、話をすればお茶目なところもあって気さくに話ができる神父様です。みなさんも神父様に会ったら気軽に話をされてはいかがですか。

1966年、ボネ神父が戸畑教会に在任中、エンゼル会という名前で女子小学生会を発足させたのが、「CYG」の始まりでした。CYG(カトリック・ヤング・ガール) 女子小学生会は、子どものキリスト教的生活の向上を目指すと同時に、

信者相互の親睦一致を深め、他の小教区との結びつきとグループ活動によって、神の御国への奉仕に身を惜しまぬ信者を養成することを意図する会として活動してきました。①会員はイエスさまのお望みにいつも従います。

②会員は模範によって神の教えを伝えます。③会員はお互いに協力し助け合います。今回、40年あまり活動して

シীগ CYG活動

40年の歴史に幕



きたCYGを終えることになりました。各教会の神父様や保護者の皆様、多くの方々のご厚意により今日まで続けることができましたことを感謝します。子どもたちがこれからも「神様の子ども」として大きく育まれていきますように、神様の御手に委ねて祈り続けたいと思います。

(リーダー一回)

※CYGへの思い

今村 花菜

小学三年でCYGに入会して以来20年近く、私はCYGと共に成長してきました。キャンプや遠足、教会訪問をとおして、他の教会の友だちと仲良くなったり、紛争や災害で困っている国について勉強したり、支援のバザーを開いたりしてたくさんさんの活動を行ってきました。教会学校は学ぶ場、CYGは実践する場という位置づけでしたが、新発見や出会い、挑戦がただ楽しくて夢中で通っていたことを覚えていきます。

純に楽しいCYGから離れたかったからです。初めは全くリーダーの自覚などなく楽しく遊ぶだけでしたが、成長していくにつれ「CYGの楽しさをもっと感じてもらいたい」「神様や教会のことを身近に思ってほしい」と考えるようになりました。

教会から離れる友人も増える中で、そばにいてくださる神様と、私たちを暖かく見守ってくくださる教会のみなさんを、私自身がCYGをとおして実感できたからです。この思いを胸に、これまで活動を続けてきました。CYGの活動は終わりますが、私はこれからも神様がそばにいてくださる幸せを、子どもたちと感じていきたいと思っています。

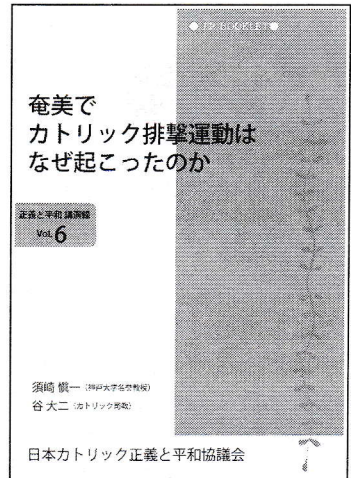
小学校を卒業してリーダーになりたいと思ったのも、単



奄美で カトリック「排撃運動は なぜ起こったのか

1934年(昭9)、奄美大島のカトリック信者は強制棄教に立たされた。区長から「棄教しなければ殺すぞ」と迫られ、…「事の余りに突然なのに信者驚き仕方なく不本意乍ら信者全部背教を誓ひ…」「女子は勿論大人までも泣き叫び」「3,500名ほどいた信徒の内、3,000名以上が転宗…」(52pより)。 一体何が。

正義と平和講演録(Vol.6)が発行されました。1冊150円



昭和の時代になっても、カトリックに対する攻撃は凄まじいものがありました。発行にあたり、松浦悟郎司教は次のように述べています。

「今、日本は戦後六九年間、曲がりなりにも平和憲法を手放さず、ただの一度も戦争をすることなく歩んできました。しかし、現政権による軍事化への強い欲求とそれに伴う法整備、解積などを力ずくで行おうとする傾向は、一九三〇年代の状況と似ているのです。：私たちが置かれている今という歴史的分岐点の中で、平和のために何を選択し行動すべきかを、過去と向き合いながら明らかにする必要があります。その意味で、本冊子は必ずや大きな示唆と教訓を与えてくれることでしょう。」

「現在」は過去を振り返る事でよく見えると思います。お読み下さい。問い合わせは

FA X 093・622・1290
(カトリック20条の会 瀬下まで)

ニュースあれこれ

◆ Sr.山本紀久代さんのお話
「3年間被災地に活動して感じていること」
とき…8月3日(日) ミサ後
ところ…黒崎教会

「今回黒崎教会でお時間をいただけたことになりました。あくまで個人的な体験ですが、約3年間の被災地での生活の中から少しでも皆さんに分かち合えたらと思っています。」

援助修道会シスター
◆放射能・放射線についての勉強会をしました。

3月20日から5日間、中高生と共に福島県相馬市小高区でボランティア活動を行いました。が、現地は放射能汚染地域とい

うことでしたので、復興は樂觀を許さない厳しい状態でした。放射線被曝や汚染については、正しい知識が伝わらないために風評被害も出て現地の地元では苦しんでいます。ボランティアの人も少ない状態です。私たちが不足していることが分かりましたので、放射線に対する正しい知識を学ぶ勉強会を企画し、4月29日に小倉教会でひらきました。

急な呼びかけでしたが、講師は産業医科大の岡崎龍史先生に受けていただきました。勉強会は「放射線を正しく怖がりましょう」というテーマで、スライドなども使いながら、とても分かりやすく解説をしていただきました。もう少し早く企画してたくさんの人に参加呼びかけができたら良かったのですが残念でした。(門司 桑野)

編集室の窓

*この広報紙も13年目に入りました。皆さんの助けや助言があつてここまで続けることができ、心から感謝します。
*いよいよ、教区での大イベントが近づきました。全国から参加の申し込みが次々に来ていますが、教区内の分科会への理解が足りないため参加者が少ないのではないかと考え、3・4面の特集を用意しました。各小教区から全ての分科会に最低一人ずつ参加していただければ、教会と一般社会がどのようにつながっているかが分かります。皆さんの参加をお待ちします。(岩本)

北九州信徒協 親睦 レクリエーション 10月13日(月)

詳細は後日お知らせします



大好評だった
グランドゴルフ



大縄跳び